

平成 23 年度

事業所番号

013002

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	平成20年度以降の3か年度（年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度）連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500k1以上の事業所（他の事業所の一部（区分所有部分、テナント部分等）である事業所は除く）
C	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	トーヨーケム株式会社 川越製造所		
所在地	埼玉県川越市大字中福字松峯286		
直近3年のエネルギー 原油換算使用量(kℓ)	20年度	21年度	22年度
	8,014	7,701	7,730
産業分類名（中分類）	化学工業		
分類番号（中分類）	16		
事業活動の概要 (事業内容、従業員数、 敷地面積、延べ床面積等)	事業内容：塗料、粘接着剤、合成樹脂、塗工材料及び着色剤に関わる製品の製造 従業員数：561名 敷地面積：151,513m ² 延べ床面積：60,965m ²		

(3) 地球温暖化対策推進者（事業所に推進者がいる場合）

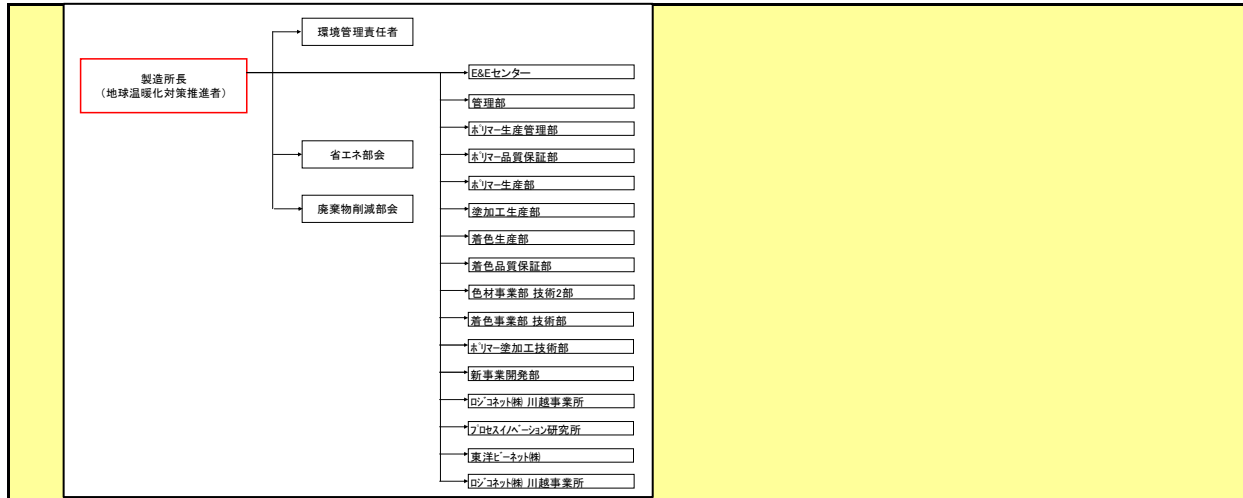
所属部署	電話番号
川越製造所	049-242-1331

2 事業所の地球温暖化対策推進における基本方針（事業所で定めている場合）

東洋インキグループの環境・省エネ方針に基づき、当製造所における具体的な省エネ・省材方針を定め、省エネ部会を軸とした推進を図っている。

1. ガス・蒸気システムの効率化：排熱の有効活用による蒸気ボイラー運転、温水回収を実施し、重油の削減に努める。
2. 蒸気ロスの低減：トラップの交換、蒸気配管保温材の修復、蒸気元バルブの開閉管理により蒸気ロスを図る。
3. 未利用エネルギーの活用：生産活動から発生する場内蒸留して重油混合燃料として使用する。
4. 生産性向上：生産計画の適正化と工程改善・スケールアップ・収率を総合的に改善することにより、エネルギー削減を図る。

3 事業所の地球温暖化対策における推進体制（事業所で定めている場合）



4 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 削減目標

削減計画期間		23	年度	～	26	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	「基準排出量に対して削減期間の4年平均で約25%を削減する」				
	その他の	「平成14年度から16年度の平均排出量に対して削減期間の4年平均で約61%を削減する」				
エネルギー起源CO ₂ の目標概要	基準排出量	21,750	t-CO ₂ /年			
	排出可能上限量 (計画期間合計)	81,780	t-CO ₂			

5 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算 (t-CO₂)

				計画期間前		計画期間			
				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
エネルギー起源CO ₂		目標		16,200	15,900	15,000	17,800	16,800	
		実績	14,113	14,136					
その他ガス	非エネルギー起源CO ₂	目標		4,900	4,600	4,400	4,900	4,600	
		実績	2,067	2,025					
	メタン	目標							
		実績							
	一酸化二窒素	目標							
		実績							
	ハイドロフルオロカーボン	目標							
		実績							
	パーフルオロカーボン	目標							
		実績							
	六フッ化硫黄	目標							
		実績							
温室効果ガスの合計		目標		21,100	20,500	19,400	22,700	21,400	
		実績	16,180	16,161					

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO₂)

CO₂換算 (t-CO₂/指標)

				計画期間前		計画期間			
				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位		目標		0.2300	0.2208	0.2055	0.2225	0.2074	
		実績	0.2023						
活動規模の指標	<input checked="" type="radio"/> 生産量	単位 【あたり】	69754	70434	72000	73000	80000	81000	
	<input type="radio"/> 出荷額	単位 【】							
	<input type="radio"/> 従業員数	単位 【】							
	<input type="radio"/> 床面積	単位 【】							
	<input type="radio"/> ()	単位 【単位】							

別紙2号 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

事業所C

トーヨーケム株式会社 川越製造所

No	対策の区分		対策名称	実施時期	備考	
	区分番号	区分名称				
		大区分				中区分
1	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	蒸気流量計の設置による蒸気使用量管理 蒸気元バルブ閉管理による無駄の削減	平成22年度	
2	320300	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	蒸気配管・バルブ類の保温材補修 ドラム加温槽からの蒸発防止策実施	平成21年度	
3	320400	熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	蒸気熱源からヒートポンプ方式の温水・冷水供給	平成24年度	
4	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	蒸気吸収式冷凍機から電気式モーター・チラー方式に更新	平成24年度	
5	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	ボイラーの集中管理から分散型への変更による蒸気放熱ロスの低減	平成25年度	
6	340500	発電専用設備、コージェネレーション設備	34_熱の動力等への変換の合理化に関する措置	コージェネレーションシステムの排熱利用（蒸気、温水発生）による重油削減	平成19年度	
7	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	末端での力率補正による電力の有効活用	平成24年度	
8	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	エア漏れ対策とコンプレッサーの効率的稼働	平成22年度	
9	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	冷却水循環系統の変更による送水ポンプの稼働率制御	平成24年度	
10	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	水銀灯・蛍光灯からLED照明への変更	平成23年度	
11	170300	負荷平準化	17_新エネルギー	廃溶剤を蒸留精製し、副生液を製造。蒸気ボイラー燃料として併用し、重油削減	平成17年度	
12						
13						
14						
15						

別紙4号 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

事業所C

(※希望者のみ記載)

トヨーケム株式会社 川越製造所

自由記述欄

1. ISO14001の取得
 当工場では、1997年2月にISO14001を認証取得し、エネルギー使用量の削減、地球温暖化対策や廃棄物の削減などに取組んでいます。
 また、製品面でも水性化、脱VOC、脱塩化ビニル、リサイクル性を考慮した環境調和型製品の開発を行っております。

2. 社会・環境活動報告書
 1999年より、社会・環境活動報告書を作成し、事業活動を開示しております。
<http://schd.toyoinkgroup.com/ja/csr/reports/backnumber.html>

県が定める係数以外の電気の排出係数を用いた場合のエネルギー起源CO2排出量 (22年度)

排出係数 (t-CO2/千kWh)	係数の根拠	エネルギー起源CO2 排出量(t-CO2)
0.386		14,136